

【資料】

平成26年度 林業研究・技術開発推進

近畿・中国ブロック会議育種分科会

林 勝 洋<sup>1</sup>

平成26年度林業研究・技術開発推進近畿・中国ブロック会議育種分科会は、9月30日に近畿中国森林管理局において、林野庁、近畿中国森林管理局、関西育種基本区内の各府県及び関係機関から53名が出席して開催された。

最近の林木育種の情勢について

林野庁から、① 林木育種に関する情報提供で「苗木安定供給推進事業（拡充）」及び「マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業（継続）」、② 特定母樹の増殖および花粉発生源対策については、「特定間伐等及び特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本方針」及び「花粉発生源対策の推進」、また、林木育種センターからは③ 開発品種の普及促進等についての説明があった。

林木育種の推進について

(1) 林木の新品種の開発

関西育種場から以下の説明を行った。① 第2世代スギ・ヒノキの選抜について、四国北部及び四国南部育種区で、平成26年3月までにスギエリートツリーが76系統、ヒノキエリートツリーは27系統が認定された。また、第3世代精英樹を選抜する育種集団林を造成するため、エリートツリー等による人工交配を進めており、平成26年3月には四国森林管理局管内にスギ育種集団林2箇所を設定した。近畿、瀬戸内海、日本海岸東部、日本海岸西部育種区での取り組みは、第2世代候補木として平成26年3月までに国有林内のヒノキ次代検定林から180本を選抜、同じくスギは17本を選抜した。なお、平成25年10月には、スギエリートツリーから21系統が特定母樹として大臣指定された。

② マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発について、府県で選抜されたクロマツ候補木の二次検定を実施し、平成25年度は2系統が選抜基準を満たし合格した。今後は山行き苗木の抵抗性を高めるため、抵抗性マツの現地での性能評価や、より抵抗性の高い第2世代品種の開発

を関係府県と連携して進める。

③ 花粉症対策に有効な品種の開発について、さらなる花粉の少ない品種を開発するため、徳島県と共同で精英樹の雄花着花性を調査した結果、2系統が新たな品種として開発された。無花粉スギの開発では、林木育種センターで開発した無花粉スギ「爽春」及び「三重不稔（関西）1号」と成長や材質等の優れたスギ精英樹等との人工交配を進める。

④ 幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいヒノキ品種の開発について、これまで民有林、国有林に設定された次代検定林等で調査した樹高、直径、容積密度の調査結果を解析し、品種開発を進める。

⑤ 初期成長に優れたスギ品種の開発については、エリートツリーの山行き苗の生産に今しばらくの期間を要することから、第1世代精英樹の中の初期成長に優れた特性等の情報を活用し、品種開発を進める。

(2) 育種種苗の生産と普及

育種種苗の生産と普及の状況及び林木遺伝資源の収集・保存について、実績と計画の説明を行った。

林木育種事業の取り組みについて

平成26年度は、各府県とも概ね前年度に引き続いた事業・研究の取り組みが計画されている。新たな取り組みとしては、エリートツリー等の成長が早い品種のミニチュア採種園の造成が進められる。

協議事項及び提案・要望について

協議事項として、育種種苗の普及のための取り組みについて意見交換を行った。また、① 積雪地域に対応したエリートツリーの選抜、② 1年生苗（コンテナ苗）への材線虫接種基準の作成、③ 花粉症対策品種の開発方針について、④ 精英樹30年次特性表及び材質調査の解析について、⑤ 特定母樹（花粉症対策）の開発について、提案・要望が出された。

<sup>1</sup> はやし かつひろ 森林総合研究所林木育種センター関西育種場